

ナラティブ教材を用いた
精神看護学授業における
統合失調症のイメージの向上：
テキストマイニングの評判分析
小平朋江（聖隷クリストファー大学）

tomoe-k@seirei.ac.jp

いとうたけひこ（和光大学）

第32回日本看護科学学会学術集会

東京国際フォーラム

ホールB7(2) P11-C-16

2012年12月1日 15時00分から15時45分

研究の背景

- 統合失調症（精神分裂病）のイメージは？

「怖い」「近寄りがたい」

⇒Allport (1954) の定義と一致

- 厚生労働省(2009)

⇒精神障害者の経験・体験から学ぶ姿勢を重視

研究成果を根拠に具体的で实际的なナラティブ教材を活用しての教育技法の確立が急務



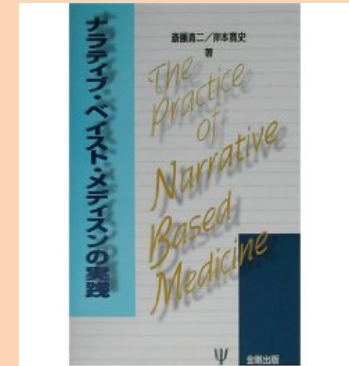
研究の意義

●「ナラティブ教材」の用語を用いているのは他には見当たらない

- ・医学教育：斎藤（2001）インターネット・チュートリアルにおけるナラティブ教材の利用とその有用性について,岐阜大学医学教育開発研究センター2001年度共同研究報告書
- ・企業教育：堀田他（2010）気づきを誘発する他者視点推薦手法ナラティブ教材を使って,科学教育研究,(34)2, 154-166.

●ナラティブ教材から学ぶ効果

- ・病いの理解、当事者の生き方
- ・偏見低減効果と深い人間理解
- ・看護独自の介入方法の在り方



●伊藤(1998)の指摘に基づく教育技法の確立が必要

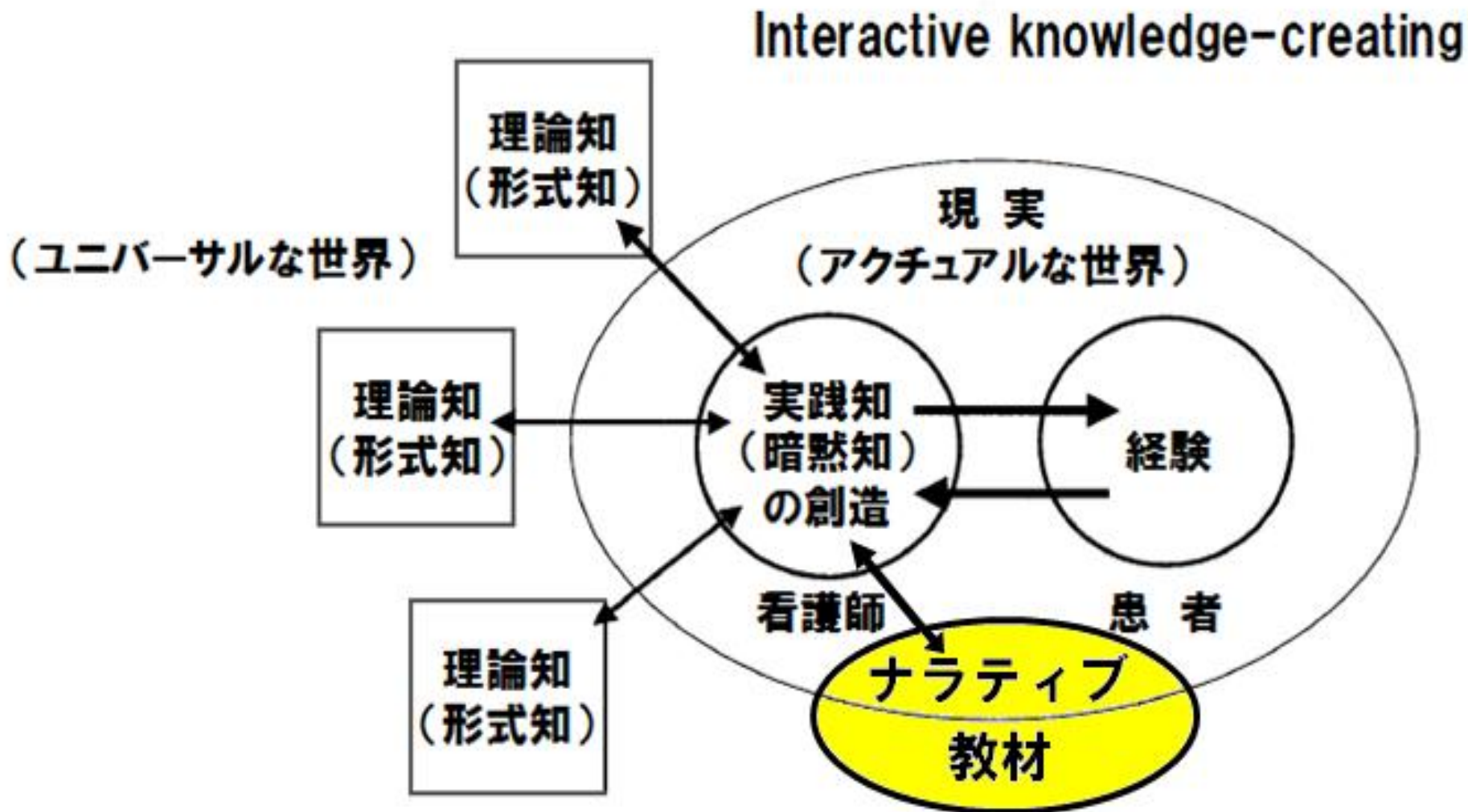
「本人の人間的自覚によって変えられるべき性質のもの」

「その達成には権力的ではなく、教育的・発達的な働きかけ」

自分の偏見に気づき、共感的に相手の人に向き合える学びの体験
が偏見克服と成長・発達のプロセス

研究の意義

経験を知に変換する「知識創造」モデル(中山,2004)における
ナラティブ教材の位置づけ



目的

精神看護学教育において統合失調症に対する
偏見低減に効果的なナラティブ教材を実際に
活用した教育技法を確立することである

倫理的配慮

大学倫理委員会の審査を経て実施した。研究趣旨、匿名性保護、自由意思による協力を文書と口頭で説明し同意した者を対象とした。

用語の定義

ナラティブ教材とは、

患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護基礎教育などに利用されうる形に教材化されたもの

研究デザイン トライアンギュレーション

西條(2009)「複数の異なる視点からアプローチする複眼的な手法」

【第1研究:闘病記や手記の探索研究】

分類とリスト化

【第2研究:偏見低減効果を検証する準実験的研究】

看護大学2年生、一般大学学生、AMD尺度(北岡(東口), 2001)で
「イメージ」「社会的距離」の変化を確認

感想文はテキストマイニングで定量的に明らかにする

【第3研究:闘病記の構造の質的量的分析】

古川(2001)『心を病むってどういうこと?:精神病の体験者より』
テキストマイニングと伝記分析法(西平, 1983)で構造の可視化

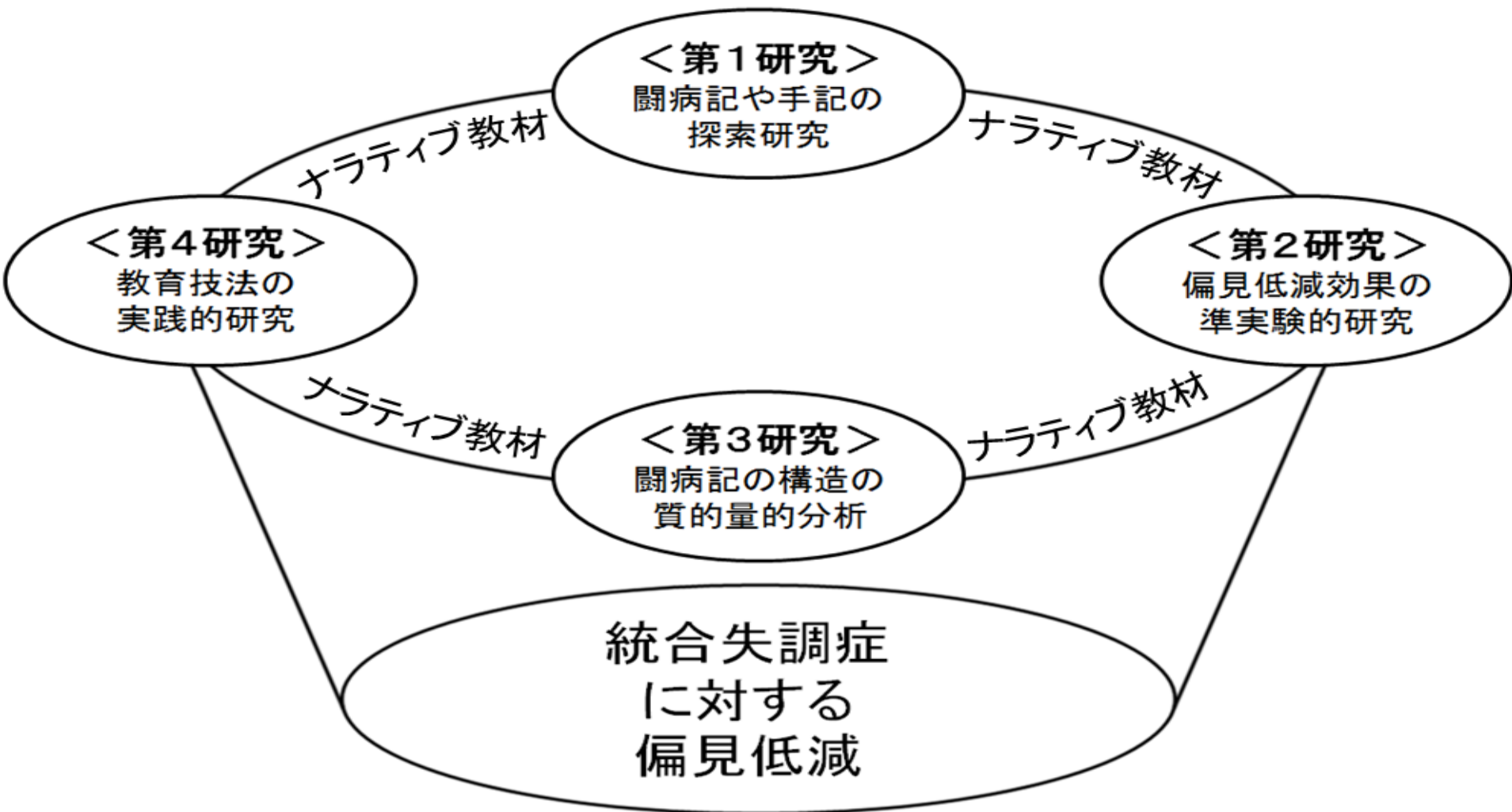
【第4研究:教育技法確立のための実践的研究】

看護大学生150名程度にナラティブ教材を活用し感想文・イメージな
どを自由記述、テキストマイニングで学生視点からの効果を分析



研究デザイン

本研究の概念図



結果 闘病記や手記の探索研究【第1研究】

小平朋江・いとうたけひこ(2012). 統合失調症の
闘病記のリスト: ナラティブ教材の可能性を展望
する, 心理学, 33(2), 64-77.(印刷中)

- 217冊をリスト化
- 多様な表現形態
- 増加の要因は時代背景とも関連
- 症状・障害の特徴、精神医療の在り方、当事者活動の方向性も示唆↓

偏見低減に効果的なナラティブ教材

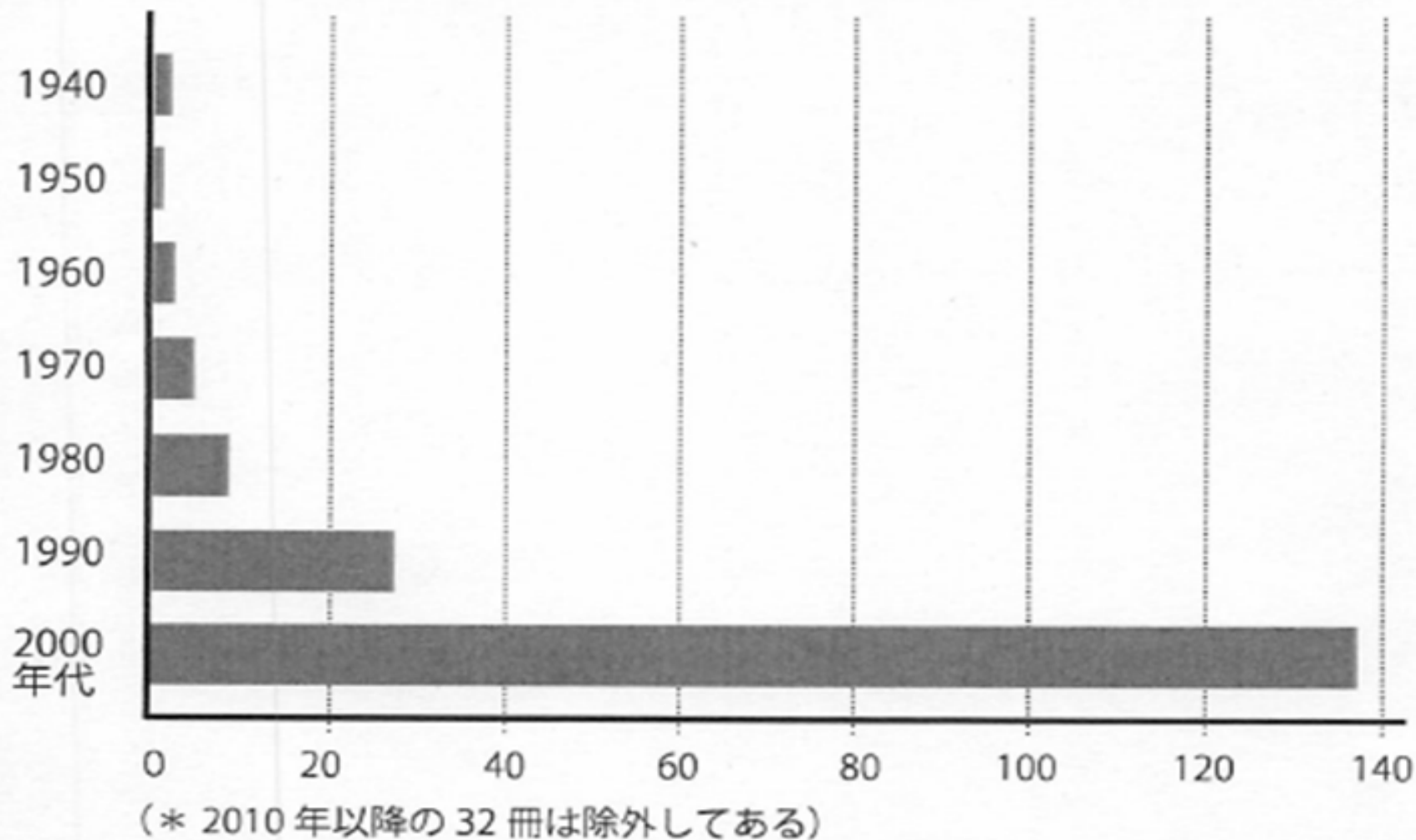


図1 1940年代から2000年代までの統合失調症の闘病記(単行本)発行点数の推移

(小平・いとう, 2012)

結果 偏見低減効果を検証する準実験的研究【第2研究】

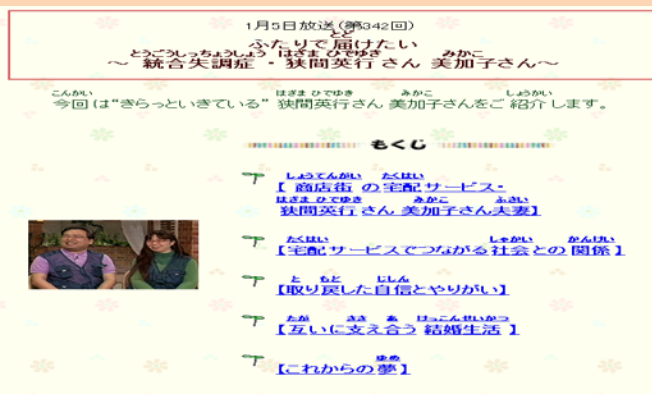
- ・5種類の教材 録画ビデオ、マンガ
- ・4つの実験でAMD尺度を用い偏見低減効果を確認
- ・看護大学生220名、2大学文系大学生382名、計602名
- ・実験4の結果は順序構造分析(戸田他, 2009)で下位尺度の項目間の関係を可視化し連関構造も明らかに



病いを生きる人の姿をアクチュアルに理解



偏見低減効果のある教材



実験1－実験4における偏見低減効果の比較

条件	実験番号(対象)	被験者数	社会的距離	イメージ
医師説明条件	実験1A(文系W)	42	○	△
	実験1B(文系M)	34	△	○
患者談話条件	実験1A(文系W)	40	○	◎
	実験1B(文系M)	33	△	◎
浦河べてるの家	実験2(文系)	49	×	◎
狭間夫婦	実験3(文系＋看護)	142+136	◎	◎
マンガ教材	実験4(文系)	42	○	×
	実験4(看護)	84	○	△

偏見低減： ◎大、 ○有、 △無、 ×負の効果

結果 闘病記の構造の質的量的分析【第3研究】

小平朋江・いとうたけひこ・大高庸平(2010).統合失調症の闘病記の分析:古川奈都子『心を病むってどういうこと?:精神病の体験者より』の構造のテキストマイニング,日本精神保健看護学会誌,19(2), 10-21.

- 古川(2001)を分析、各章の特徴が明らかに(図)
- ポジティブで具体的メッセージ
- 体験者の物語りと積極的意見が統合



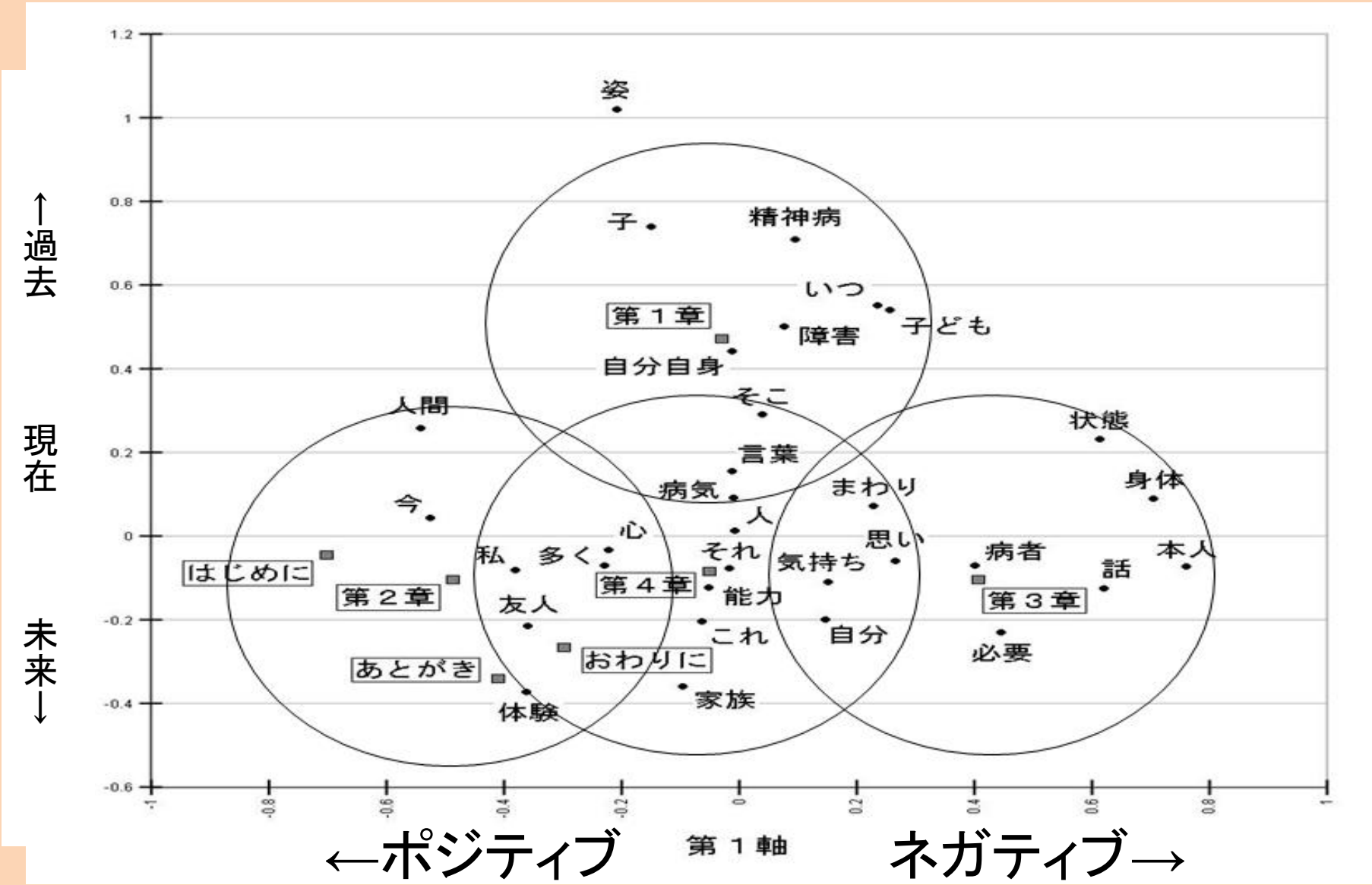
当事者の生きる姿と関わり方を知る



偏見低減に効果的な教材



各章および項目と使用頻度単語(上位20件)の対応分析

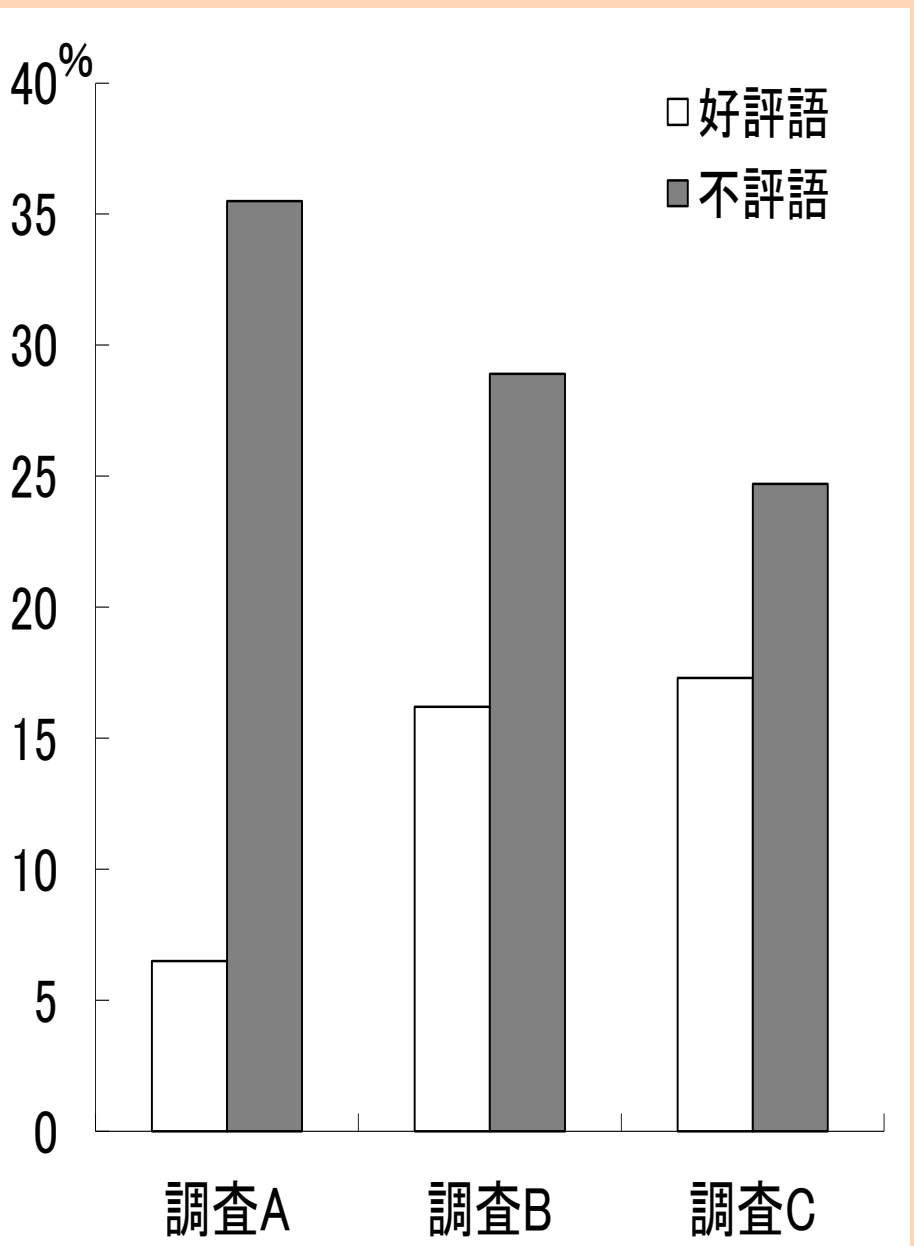


(小平・いとう,2010)

結果 教育技法確立のための実践的研究【第4研究】

- 看護学部2年生 2010年度・2011年度
- 「精神看護援助論Ⅰ」
- 「統合失調症の看護」(2コマの単元)
- 統合失調症イメージ 自由記述
 - 事前調査A(1回目)1コマ目講義開始時
 - 事後調査B(2回目)2コマ目講義終了時
 - 事後調査C(3回目)全ての講義終了間近時
- 延べ595名回答
 - ⇒ テキストマイニング 評判分析

好評語と不評語を用いた人数の割合



- ・調査A(事前) 248名
- ・調査B(事後) 197名
- ・調査C(事後) 150名

調査Aより調査BCの方が
有意に好評語の割合が多い



回復した姿のイメージを持つこ
とも可能、自らの偏見に気づ
き共感的に当事者と向き合う



偏見克服と成長・発達の
プロセスとして意味ある
学びの経験

学生はナラティブ教材をどのように経験するのか？

～古川(2001)の病いの語りに沿って～

＜学生の感想文より＞

- 精神症状がでて自分の記憶があることに驚いたしさらに、その行動に至る理由、その人なりの考え方まであることにとても衝撃を受けた。私は「精神病」というものに対して、ひどい偏見を持っていたことにも気づかされた。患者には考える力があり、心があり理由がある、ということをしっかり頭の中に記憶したいと思う。
- 病気が治る、治らないの2極ではなくて、あえて新しい立場の「寛解」という次元にいるという古川さんの文章は衝撃だった。人間の性質はもともとそんなに変わるものではないけれど、病気を発病することによってもとの性質が少し変わるのかと思う。

学生は
統合失調症
の症状や
エピソードを
点で
見ている

発病前
は良い
子、根
暗だった

幻聴も
あって椅子
子を投げ
げる

保護室
に入る

寛解

ナラティブ教材
の
活用

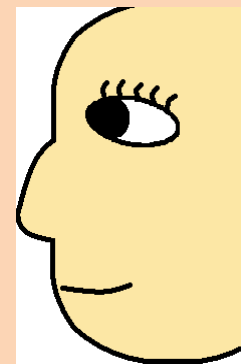
学生は
統合失調症
を病む
古川さんの
体験を
連続性のある
ストーリー
として
見るように
なる

発病前
は良い
子、根
暗だった

幻聴も
あって椅子
子を投げ
げる

保護室
に入る

寛解



学生

成果と解釈

＜ナラティブ教材と看護実践＞

- Peplau (1952)
「看護とは有意義な、治療的な、対人的プロセス」
- 渡邊 (2006)
「治療となり得るための看護介入の技術開発が必要」
- 遠藤 (2011)
「ナラティブを助ける技術」
病いの経験から得た知恵の共有
「リアリティ」と「アクチュアリティ」(木村, 1994)



当事者視点で病む体験と回復の姿を学ぶ

成果と解釈

＜4つの要素＞

- 1 「発達の最近接領域」を準備し「生活的概念」「科学的概念」を結合（ヴィゴツキー,1962・2001）
- 2 「知性的理解」「感性的理解」の共存（田中,2001）
- 3 具体的リアリティがあり実践的アクチュアリティに移行（木村,1994）
- 4 経験の内容の洗練や拡大（Dewey教材論）

成果と解釈

<5つのメリット>

いとう(2012)「効楽安近短モデル」を参考に

- 1 教材としての有効性・効果性
- 2 物語性・娯楽性
- 3 安全性・非侵襲性
- 4 入手可能性・経済性が大きい
- 5 利便性

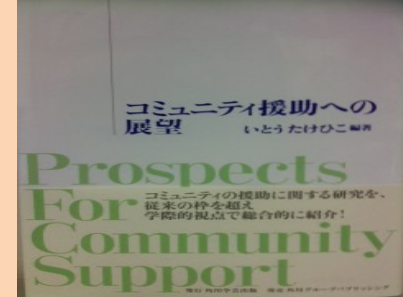
本研究の限界と課題

- 本研究の限界は、学生の思考を質的に変化させ、理解を促進させるナラティブ教材の特徴までは言及できていない。
- 今後の課題は、ナラティブ教材の長期的な効果を明らかにすることである。

結論

- 1 統合失調症の闘病記は、量的に豊富なためリスト化が可能で、多様な表現形態を持ち、その増加の要因は時代背景と関連している。
- 2 ナラティブ教材は、学生にとって偏見低減効果のある教材である。
- 3 ナラティブ教材は、学生にとって具体的な対象理解や実際の関わり方を知るきっかけが提供できるため、偏見低減に効果的な教材である。
- 4 ナラティブ教材は、学生にとって統合失調症が回復した姿のポジティブなイメージを持つことが可能になるため、共感的理解が促進される。
- 5 ナラティブ教材の活用により、統合失調症のイメージの改善が学生目線で明らかになる。

本研究に関する主な業績



- 小平朋江・いとうたけひこ・大高庸平(2010).統合失調症の闘病記の分析:古川奈都子『心を病むってどういうこと?:精神病の体験者より』の構造のテキストマイニング,日本精神保健看護学会誌,19(2), 10-21.
- 小平朋江・いとうたけひこ(2011). 順序構造分析による精神障害に対する態度測定尺度(AMD尺度)の項目間構造の検討,応用心理学研究,37(1), 42-43.
- 小平朋江・いとうたけひこ(2012).『当事者が主人公』の実践の在り方を考える:統合失調症当事者によるナラティブを手がかりに,いとうたけひこ(編)『コミュニティ援助への展望』角川学芸出版. pp. 70-94.
- 小平朋江・いとうたけひこ(2012). 統合失調症の闘病記のリスト:ナラティブ教材の可能性を展望する,心理科学, 33(2), 64-77.(印刷中)

◎平成23年度～平成25年度科研費基盤研究C(23593195)
の助成を受けた。